

「学生」×「地域」の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト 及び 大学・地域連携シンポジウムの概要

平成27年3月1日（日）に、アストホール（津市）で、「学生×地域の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト」及び「大学・地域連携シンポジウム」を開催しました。



当日は、学生その他、高等教育機関、企業、NPO、行政などから、約150名の皆さんにご参加いただき、会場は満席となりました。

当日のプログラムと開催概要は次のとおりです。

＜当日のプログラム＞

開会

あいさつ

第1部 ベストプラクティスコンテスト

- ・13の学生グループが舞台発表

第2部 大学・地域連携シンポジウム

（基調講演）

- ふくい若者チャレンジクラブ[福井県]（ファシリテーター）

- 米山 哲司 氏
[NPO 法人 Mブリッジ 理事長]（パネリスト）

- ふくい若者チャレンジクラブ
- 第1部で舞台発表した学生グループ

ベストプラクティスコンテスト 表彰式

閉会

開会にあたり、主催者を代表して三重県戦略企画部長からご挨拶しました。

第1部 ベストプラクティスコンテスト

「学生×地域の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト」は、高等教育機関と地域との連携の仕組みづくりの一環として、学生が

日頃地域で取り組んでいる活動とその成果をより多くの県民の皆さんと共有することを目的に、平成24年度から開催しています。

3回目となる今回は、地域で活動している13の学生グループから活動発表がありました。

＜発表の様子＞



活動発表を行った学生グループ

※発表順。括弧内はメンバーの所属する学校名

- 子育て支援活動「ぴよぴよ」（皇學館大学）
- 地域社会研究会（皇學館大学）
- この子想いのサポートブックプロジェクト（皇學館大学）
- すずかテラス（鈴鹿工業高等専門学校）
- D i P O 模擬会社 夢追プロモーション（四日市大学）
- ボランティアサークル（三重短期大学）
- 災害支援の会（四日市看護医療大学）
- ボランティア・グループ Good job（近畿大学工業高等専門学校）
- スポーツ栄養サポート研究会 Grow up（鈴鹿短期大学）
- 地域連携カフェ「café HONOBUNONO」（三重短期大学、三重大学）
- 三重県学生献血推進連盟 みえっち（三重大学、三重県立看護大学、鈴鹿医療科学大学）
- みえサイエンスネットワーク「サイエンスリーダー」（鈴鹿工業高等専門学校）
- みえぬいぐるみ病院（三重大学）

それぞれの学生グループが、工夫を凝らした発表資料を用いて日頃の活動を紹介し、取組にかける想いなどを語りました。

会場内では活動発表を行った13グループを含む17の学生グループが日頃の活動を展示し、来場者は各グループの展示を見て回りながら、互いに交流を深めていました。



ご来場の皆さんには、全学生グループの活動発表を聞いていただいたうえで、各グループへの応援メッセージを添え、「この取組がおもしろい」「自分たちの地域でも参考にしたい」など、共感した団体に投票していただきました。

また、NPO、企業、行政のそれぞれの分野から、5名の方に審査委員として参加していただき、共感した団体に投票していただきました。

審査委員の皆様 ※50音順、敬称略

川北 輝（特定非営利活動法人 津市 NPO サポートセンター 理事長）

中山 育之（株式会社 伊勢萬 専務取締役）

山口 友美（特定非営利活動法人 アトリオ 理事長）

山口 祐佳里（株式会社 百五経済研究所 研究員）

竹内 望（三重県戦略企画部長）

第2部 大学・地域連携シンポジウム

昨年度の「ベストプラクティスコンテスト」で会場から最も多くの票を獲得した「ガクレポ」の皆さんから、その後1年間での活動の進化について発表いただいた後、第2部に入りました。



大学・地域連携シンポジウムは、参加した皆さんに活動のヒントとなる先進事例を学んでいただき、学生等が地域活動に参加する機運の醸成を図るため、ベストプラクティスコンテストと同日開催しています。

今回は、昨年度より三重県と「若者交流事業」を展開している福井県から、若者の地域活動を支援している「ふくい若者チャレンジクラブ」のメンバーをお招きして基調講演をいただいた後、同クラブのメンバーの皆さんに加えて第1部で活動発表を行った13グループから1名ずつが登壇し、ファシリテーター（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長 米山 哲司 氏）の進行によってパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションは、ファシリテーターからの質問に対し、パネリストが○、×の札を挙げた後、その理由等を述べていく形式で行われました。学生からは、「初めは地域活動に参加することを躊躇したが、地域との関わりを続けていくうちに人前に出ることが苦ではなくなり、やってよかったと思えるようになった」「三重県が好きなので、三重県を良くしたいと思って活動を続けている」等の意見が聞かれ、最後

は「学校を卒業しても、何らかの形で地域活動を続けたいと思うか」という質問に全員が○の札を挙げ、会場全体が拍手に包まれて終了しました。



シンポジウムの終了後、福井・三重両県の若者の交流が今後とも進んでいくように願いを込めて、両県でエールの交換を行いました。



ベストプラクティスコンテスト表彰式

事前の書面選考を通過して舞台発表を行った13グループに「ベストプラクティス賞」を、来場者及び審査委員から最も多くの票を獲得したグループに「オーディエンス特別賞」をそれぞれ授与しました。

オーディエンス特別賞を受賞したのは、次のグループでした。

○ みえサイエンスネットワーク「サイエンスリーダー」(鈴鹿工業高等専門学校)

<来場者から受賞グループへの主なコメント>

- 幼児期から小中学生まで楽しめる活動が素晴らしい。
- 北勢・中勢だけでなく、南部を含めた県内全域でネットワークを作ろうとしているところが良い。
- 技術者の育成や理科離れに対応する活動であり、科学に夢を描けると感じた。



(以上)